

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2015.12) 平成26年度:92.

青年期にある終末期患者に対する同世代の看護師の思い

谷本 彩乃

# 青年期にある終末期患者に対する同世代の看護師の思い

旭川医科大学病院 5階西ナーステーション 谷本 彩乃

## 1. 研究目的

青年期にある終末期患者の死を経験した同世代にある看護師の思いを明らかにする。

## 2. 研究方法

- 1) 研究期間: 2013年11月～2014年7月
- 2) 研究対象: A病棟に勤務し、患者B氏を担当した事がある看護師3名
- 3) 研究デザイン: 質的記述的研究
- 4) データ収集・分析方法: 半構成的面接を行い、得られたデータを逐語録におこし、内容分析を行った。
- 5) 倫理的配慮: 参加者に研究目的、方法、データは質的に分析し、個人が特定される事はない事、参加は自由意思であり、同意しない場合も不利益はない事を説明し同意を得た。尚、本研究は研究者の所属する倫理委員会の承認を得て行った。

## 3. 結果

分析の結果、112のコードが抽出され、28のサブカテゴリー、6のカテゴリーが生成された。

以下、カテゴリーを【 】で示す。

看護師がB氏との関わりに難しさを抱いていた背景

には、未告知に加え、【気管切開（以下、気切）による言語的コミュニケーションの難しさ】や【同世代故に死を話題にする事の躊躇】が要因であった。

両親の意向や【チーム医療の難しさ】から告知は叶わず、B氏への【希望を叶えられなかった後悔】が残った。しかし、【告知しないという両親の意向を尊重したい思い】を大切にしながら、最期まで【看護師が考える最善を尽くす看護】に努めようとしていた。

## 4. 考察

看護師が、希望を叶えられなかった後悔を抱いた要因の一つに「未告知」があり、患者の希望に沿えない葛藤や同世代患者に対して死を話題にする事の躊躇も生じていたものと考えられる。しかし、看護師が自身の立場に置き換え、最善の看護を追求していたと考えられる。

## 5. 結論

看護師は、未告知の患者の感情を引き出すことには困難があり、希望を叶えられなかった後悔を残していた。しかし、自分の立場で同世代の患者の感情を察し、最善の看護を追求していた。